

プレスリリース

2021年11月26日
国境なき医師団 (MSF)

コンゴ民主共和国：イトゥリ州で医療への攻撃、住人の医療奪う

コンゴ民主共和国北西部のイトゥリ州バンブーの路上で 10 月 28 日、国境なき医師団 (MSF) の車両が何者かに襲撃され、スタッフ 2 人が負傷した。医療援助活動を終えて戻る途中の襲撃だった。現在も、犯人とその動機は分かっていない。この襲撃以降、MSF は安全確保が困難であるとし、同州のバンブーとニジで行っていた保健省援助の活動を中止している。MSF は人道援助活動を再開するため、コンゴ政府軍、コンゴ開発協同組合 (CODECO)、さらに、イトゥリ州での紛争に関わるすべての当事者に対し、安全の確保を要請している。

活動再開の見通し立たず

イトゥリ州において MSF は、保健省と連携して小児疾患、栄養失調、マラリア、性暴力、心のケアなどの治療を行っている。バンブーとニジでは 2021 年前半だけで、3 万 3000 件余りの診療を行い、2 万 1229 回の疾患啓発活動を行っていた。

イトゥリ州のニジで MSF のプロジェクトコーディネーターを務めるステファン・ハウザーは「現在この地域では安全を確保できないため、活動再開はできません。全ての紛争当事者の協力を得て、援助活動従事者の安全を確保する必要があります」と話す。MSF は所轄官庁に対し、バンブーでの襲撃事件の調査開始を要請している。

治安悪化の代償

イトゥリ州では 2017 年から暴力が多発。MSF がプロジェクトを運営している地域では特にその傾向が強く、紛争による負傷者を治療するため前線で活動してきた。

「これまで私たちの援助によって、かろうじて医療を受けられていた人びとは、援助活動を強制的に停止したため、その機会を奪われています。治安悪化の代償を払わされるのは、またもや傷ついた人びとであると、私たちは強い怒りを感じています」とハウザーは話す。

紛争に巻き込まれた人びとのニーズに応えるために、MSF は活動を再開し、全ての紛争地域で中立・公平の原則に基づく MSF の人道援助活動へのアクセスを容易にし、かつ、安全の確保が不可欠であると訴える。

MSF は、イトゥリ州にて保健省と連携し、小児疾患、栄養失調、マalaria、性暴力、心のケアなどの治療のため、ドロドロ、ニジ、アングムの各保健区域にある総合病院 4 カ所、診療所 12 カ所、簡易診療所 3 カ所、地域医療現場 32 カ所を支援している。MSF がニジとバンブーで行っていた活動でケアを受けた人は、ニジで約 17 万 5000 人、バンブーで約 17 万 6000 人、国内避難民 12 万人を含む 47 万人余りに上る。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press